

第1回九州地区国立大学間合宿共同授業報告書

<https://doi.org/10.15017/21061>

出版情報：九州地区大学一般教育研究協議会議事録. 1, 1977-05-31. 九州大学教養部
バージョン：
権利関係：

あ と が き

▶ 第一回共同授業の初校を終えて、もういちどこれを眺めている。グラビアを含めても60ページそこそこのこの小冊子！これで、あの「島原」での高揚を十分に伝えうるのでしょうか。ふとそうした懸念が脳裏をかすめるのである。しかし、報告書とは、所詮そんなものだし、またそれでよいのだとも思う。「島原」での体験に限らず、「体験」を伝えることは、それほどむづかしいことなのだ。そういえば、この報告書のなかの多くの文章が、そうしたもどかしさについての呻吟とも読める。

▶ この報告書の編集、すでに「第二回九州地区国立大学間合宿共同授業」の企画立案が進められつつある。4月27日(水)と5月20日(金)に、それぞれ第一回ないし第二回準備委員会が開催され、九州地区6大学(いずれも教養部制をとる大学)の教養部長、教官、ならびに事務官が参集し、実施要項もできあがっている。それによると、第二回共同授業は、おおよそ次のようなものになるらしい。すなわち、メインテーマ：「現代の人と自然」、期間：昭和52年7月11日(月)－15日(金)(4泊5日)、場所：九州地区国立大学九重共同研修所(大分県九重町筋湯)、参加者数：学生100名、教職員10名余り、などである。これからもわかるように、方式や規模の面では、前回とほぼ同じである。があえて特色をいえば、野外授業に一日あてたことと、大分・宮崎の両国立大学に、開催の通知が送られたことなどであろう。しかし、これが、さらに九州地区の国立単科大学をも含めたものに発展していくかどうか、あるいは今後第三回、第四回……と継続されるものかどうかなどは、現段階では誰にも予想がつかない。舞台裏の裏方さんたちのことを度外視して、ひたすら突っ走るわけにもいかぬというのが、実状なのだ。第二回目は、その意味で一つの転機となるのではないかと考えている。

▶ 本報告書の作成に当っては、松崎掛長が中心になって、原稿や資料類を集めて下さった。しかし、この5月、学生部に配置換となったため、原稿の整理と編集には、安藤が専ら当ることとなった。この間、写真のことで、平川事務官の協力をいただいている。両氏の協力に対して感謝するとともに、本報告書のために原稿をお寄せ下さった教官、事務官、ならびに全参加学生に対して、御礼を申し上げる。
(安藤延男)

発行年月日 昭和52年 5月31日

発 行 者 九州大学教養部

810 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 771-4161